資料2

豊橋市の新アリーナ構想について

2017年３月24日

豊橋市長　佐原 光一

背景

（課　題）　人口減少、高齢化

※人口：約37.2 万人(2005年)　→ 約37.7 万人(2010年)　→　約37.5 万人(2015年)
ﾌﾟﾗｽ1.1 %　ﾏｲﾅｽ0.5 %

※65 歳以上人口・比率：
約7.6万人(20.1%)(2010年)　→　約9.0万人(24.0%)(2015年)

市内外の人を呼び込む施設が少ない

※例：市内最大の市民ホールで座席数1,500席

スポーツは、地域の様々な産業へ波及効果を生み出す分野

Bﾘｰｸﾞ「三遠ﾈｵﾌｪﾆｯｸｽ」の試合は、
4,500人動員の日も。

（新アリーナ）まちに人を呼び込む

地域の経済発展の起爆剤

（2020年代はじめの建設を目指し具体化に向け検討中）

新アリーナ　5つのコンセプト

総合エンターテインメント型アリーナ

1「スポーツを観る」「楽しむ」ための空間

Bリーグ、コンサートなど
「観る」「楽しむ」を提供

2 プロフィットセンター化

民間の整備・運営
ノウハウを活用
収益性を確保
（**コンセッション**も視野に検討）

3 好アクセス

既存インフラと
連携した
まちなか立地

4 広域集客

国内外からの
幅広い集客

5 需要喚起のハブ

来訪者による
地域内の
消費拡大

地域の新たな成長へ

新アリーナは、総合エンターテインメント空間

メインアリーナ：**総合エンタメ空間**

サブアリーナ：**日常の市民活動**

※候補地の１つとして検討中。

豊橋公園（美術博物館、城、陸上競技場　等）
・・・・まちなか立地の好アクセス

世代を超えた交流人口の呼び込み

新アリーナを核としたまちづくり①

まちなかの施設・インフラと新アリーナの連携で（まちなか回遊ネットワーク）

商店街の活性化、エリア全体の**商業・観光・サービスの消費拡大**

新アリーナを核としたまちづくり②

○新アリーナが地域の**需要喚起のハブ**に

○**市**と**地元中核企業**や**プロスポーツチーム**など様々な
ステークホルダーが連携し、**街全体の活性化**や**消費拡大**

○**商店街**へのイベント参加、
元アスリートなどによる**学校での部活動指導**
→プロスポーツチームが**地域活性化に貢献**

要望

○　新アリーナを核としたまちの活性化に関する支援の充実

○　民間投資への税や資金調達に対する支援

○　都市公園において民間事業者による柔軟な施設運営を可能とする制度の整備